

26PB-am186

分割使用医薬品の使用における Infection Control Team の介入

○丹羽 英二^{1,2}, 成田 知里^{1,2}, 田中 嘉一¹, 赤間 陽太², 岩船 久子², 黒田 文伸², 濱田 潤¹ (1千葉県済生会習志野病院薬, 2千葉県済生会習志野病院 ICT)

【目的】インスリンバイアル製剤、吸入剤、軟膏剤、消毒剤などは、病棟で複数患者に分割使用されている。これら分割使用医薬品（以下、分割使用薬）は、微生物汚染などの観点から開封後使用期間を設定することが推奨されている。しかしながら、開封日記載漏れ（以下、開封日漏れ）や使用期間経過後の回収漏れ（以下、回収漏れ）が起こると、使用期間経過後の医薬品が投与されるリスクになる。そこで、分割使用薬の開封後使用状況について調査し、ICTによる介入を行ったので報告する。

【方法】2016年8月から11月までの4か月間、ICTラウンド時（毎週）に分割使用薬の開封日漏れ、回収漏れ、廃棄金額について調査を行った。また、開封日未記載時には前週ラウンド日を記載し、回収漏れ時には廃棄とした。結果はラウンド終了時に各病棟へフィードバックを行った。

【結果】開封日記載率（開封日記載数/全開封数）は、8月72.7%、9月82.4%、10月85.5%、11月90.5%と介入開始後、改善傾向となった。回収漏れ件数/月は、8月32件、9月26件、10月17件、11月38件と大きな変化はなかった。使用期間経過に伴う廃棄金額は月平均18,000円程度であった。

【考察】開封後使用期間を管理するためには、開封日記載と使用期間経過後の回収が重要であり、どちらが欠けても安全な使用期間管理は行えない。ICTがラウンド時に介入することで、病棟スタッフの意識が向上し、開封日記載率が改善したと考える。また、回収漏れ件数は改善しなかったが、ICTラウンド時に回収することで使用期間経過後の医薬品投与は防止できると思われる。定期的なICTラウンドによる介入で、分割使用薬の安全な使用管理が行えることが示唆された。